

学校法人 青山学院
2011 年度 事業計画書



学校法人 青山学院
(2011年3月24日 理事会承認)

1874(明治7)年に米国のメソジスト監督教会の信仰と祈りをもって派遣された宣教師たちにより始められた青山学院は、2009年に創立135周年を迎え、「キリスト教信仰にもとづく教育」という創立当初からの理念のもと、常により良い教育を目指してきた先達たちの努力によって、幼稚園から大学・大学院までを擁する日本有数の教育機関に成長いたしました。

現在、我が国においては、長引く経済の低迷に加え、国際的な競争の激化、世界に類を見ない速さで進む少子高齢化等、社会における環境、が大きく変化しつつありますが、私立学校は経営基盤の維持・強化はもちろんのこと、教育研究内容や財務状況に関する情報公開を積極的に行い、今まで以上に社会の要請に応えるべく、質の高い教育・研究活動の成果を上げることが責務となっています。

このような中、青山学院では、2012年度から大学の人文・社会科学系学部の一・二年生の学びの場を相模原キャンパスから青山キャンパスへ移行すると共に、相模原キャンパスを整備することで、さらに大きな「共同体」として教育・研究における総合的、有機的な活性化を図ろうとしております。また、学院の歴史や伝統を象徴する建物との共存に配慮しながら、青山キャンパスの再開発を進め、安全・安心への取り組みをさらに強化すると共に、建学の精神に則った明るく希望に満ちた学園づくりを目指しています。

2008年にキリスト教信仰にもとづく建学の精神のもと、青山学院の新たな時代を切り拓くために「人間教育の再創造」「環境の整備」「戦略の強化」を三つの柱として学院が掲げた課題は、2009年度より各設置学校・各事務部署が、その重要性和緊急性に従って優先順位をつけて事業計画として取り組み、学院全体でその進捗と結果を確認する体制をとることで、改善と発展につなげています。2011年度は、このPDCAサイクルに則った事業計画としての取り組みの3年目となり、2010年度の取り組みの継続発展に加え、新たな課題にも教職員一丸となって着手していきます。

本計画書の中には、幼稚園から大学・大学院までの各設置学校および各事務部署が策定した2011年度事業計画の中から、下記に掲げた基本方針に合致するいくつかの計画について抜粋したものを掲載しておりますが、主要となるテーマにつきましては、定例業務として見直しや改善を行いながら毎年実施されているものも含まれています。しかしながら、このたびの東北地方太平洋沖地震により、これらの計画を実施する上で直接的・間接的な影響が生じる可能性が考えられます。青山学院としては、必要に応じて計画を弾力的に変更するなど、臨機応変な対応を行いながら事業計画を推進していく所存です。

最後になりましたが、被災された皆様に、心からお見舞い申し上げますと共に、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

【 2011年度 学校法人青山学院事業計画 基本方針 】

- ・ 教育の基本となるキリスト教について、学院に関わる一人ひとりの理解を深め、各設置学校が掲げる教育理念にもとづいた教育の実現を図る
- ・ 国際理解教育と一貫教育を充実させる
- ・ 厳しい社会状況に直面する学生への支援(経済支援、進路・就職支援等)を強化する
- ・ 「キャンパスの安全・安心」を第一に、教育環境の整備を行う
- ・ 大学における2012年度キャンパス再配置に向けた準備を着実に進行
- ・ 学院発展のため、組織・体制の強化を図る

・人間教育の再創造

1. キリスト教教育の促進

建学の精神の根幹を成すキリスト教教育促進のため、各設置学校ならびに学院では、園児・児童・生徒・学生そして保護者、教職員がキリスト教に触れ、親しむ機会を増やしていけるよう取り組みを行っています。2011年度事業計画としては、下記の取り組みを進めます。

【学院】

学院各部で行われている礼拝において、各部の礼拝奨励者、聖歌隊、ハンドベルクワイヤの交流を更に進めていきます。この活動は学院全体のキャンパス・ミニストリーへの理解を深めるだけでなく、礼拝参加者に各部の垣根を超えた「青山学院の一員」としての自覚を促し、礼拝出席への意欲を高める一助ともなっています。また、青山・相模原両キャンパスで週一回実施している職員を対象とした聖書研究会への積極的な参加を呼びかけ、職員の「建学の精神への理解」へつなげます。

【大学】

キリスト教学校へ教員として就任する者のための教育プログラム(スーパープログラム)について、さらにカリキュラムを充実させ、キリスト教精神にもとづいた教育を担う人材を社会に輩出します。

【短大】

入学後初めてキリスト教に触れる学生が少なくなく、また「本学の学生である自覚と誇り」を持つためには、キリスト教の歩みと関わる本学の歴史を知ることが重要であることから、従来実施している新入生へのチャペルオリエンテーションでは、新たに学院の歴史とカルト宗教への注意を喚起する内容を加え、本学の正統的キリスト教理解への助けとします。更に、チャペルウィークでは各界で活躍中のキリスト者をお招きして多様なキリスト教の働きについて理解を深める等、キリスト教行事の内容の充実を図り、学生・教職員に対し積極的な参加を呼びかけます。

【高等部】

毎日の礼拝以外にも、グリーンキャンプやクリスマス礼拝、ペンテコステ礼拝の実施等により、生徒が積極的に聖書に親しむ場と、キリスト教との出逢いの機会を提供していきます。

【中等部】

毎日の礼拝と週一回の聖書の授業を土台としたキリスト教教育を行っている中等部では、2011年度は学外者への理解拡大にも努めることとし、会場校としてキリスト教学校教育同盟主催の新任教員研修会の開催に関わるだけでなく、実習生・研修生等の受け入れを通して、キリスト教教育に関わる教職員後継者養成にも協力していきます。

【初等部】

児童だけでなく、保護者もキリスト教に親しむことができるように、保護者対象の「聖書に親しむ会」や「キリスト教文化講座」等を実施していきます。

【幼稚園】

教員対象の「園児の聖書への理解を深めるための講習」等、保育の土台となる神様への礼拝を大切にしていくための定期的な研修を実施することで、教員のキリスト教に対する理解をさらに深めていきます。

2. 教育力の向上

青山学院が目指すキリスト教を基盤とした教育と、社会・時代の要請に応えていける教育力を各設置学校が充実・堅持していくために、下記の具体的取り組みを計画しています。

【大学】

- ・文学部史学科の芸術史コースを基礎に「比較芸術学科」を設立し、文学部の再編成を行います。美術、演劇、音楽を柱とした学術研究を目的とするカリキュラムを編成して、大学院専攻課程も同時に設置し、新しい文学部の教育研究体制を整備します。
- ・2012年度からの文・社会系学部の青山キャンパスへの移行にともない、相模原キャンパスの充実・強化を図るために2013年4月からの新設学部の設置を目指します。相模原キャンパスで4年間修学する理工学部と社会情報学部との親和性、補完関係を持つ学部を置くことにより、キャンパス全体のレベルアップを図ります。
- ・2012年度からの両キャンパスにおける4年一貫教育の実施に合わせて、全学共通教育としての青山スタンダード教育再配置のための実施計画を作成します。さらに、改革案を実行に移します。また、就業力育成事業によって新設されたキャリア科目等を実施するほか、4年一貫教育に適合した専門教育カリキュラムの充実を図ります。
- ・学内の優れた教育プログラム、教育改善の試みを支援する制度として青学 GP 制度を設けています。選考を経て採択された取り組みは全学的に報告され、全学部で共有し活用する等の効果が期待されるとともに、さらに学外からの資金獲得につなげるための支援をしていきますが、2011年度はこの制度のさらなる充実を図ります。
- ・キリスト教学校等との連携
従来から高等部と進めている学問入門講座、及び青山スタンダード教育のもとで進めている高大連携等の充実を図るとともに、キリスト教学校との教育協定にもとづく連携授業、推薦制度等に関する具体策の検討を進めていきます。また、キリスト教学校との連携の範囲を広げる方向性を追求していきます。

【短大】

21世紀に生きる女性が新しい「教養教育」を体得するための学科改組を行い、今までの教養教育の資産を活かしつつ、人間力養成を軸に置いた現代型の教養教育を実現するため、2012年度に子ども学科を除いた既存の5学科(国文学科、英文学科、家政学科、教養学科、芸術学科)を融合させた「現代教養学科(仮)」を開設する予定です。2011年度は、新学科開設のための準備と、受験生への周知に向けた広報活動を展開していきます。

【高等部】

- ・2013年度の高等学校新学習指導要領の実施に向け新カリキュラムを作成すると共に、新カリキュラムのもとでの取り組みの明確な方向性を教員が一致して持つことで、より充実した授業の実施につなげるため、教科毎の強調点と目標設定の確認を行い、必要に応じて変更します。
- ・教職員全員参加の研修等を通し、教育研究共同体としての高等部への帰属意識と連帯意識を高め、使命感の確立と問題意識の共有を図り、教職員一体となった教育を目指します。

【中等部】

高中部の教育理念(ひとりひとりの生徒の人格を育み、その自己実現を支える)の実現と、授業の充実を図るため、中等部では2011年度より32名8学級体制の少人数教育を実施します。それに伴い、授業方法やクラス編成、キャンプ等学校行事運営の見直しを実施し、より効果的な教育体制を整えるとともに、使用教室の準備や安全性の確認等、環境の整備を行います。

3. 一貫教育の充実

青山キャンパスに幼稚園から大学・大学院までを擁する特性を最大限に活かし、青山学院でしか実現できない一貫教育の充実に向け、下記の取り組みを推進します。

1) 各設置学校間の連携強化

【大学・短大】

女子短期大学から大学への推薦編入は、青山学院が高等教育として短大・大学を併せ持つ総合学園であるという特色を活かした、短大生のセカンドステージへの重要な選択肢の一つですが、2012年度の短大改組と現代教養学科(仮)の設置(予定)に伴い、短大から大学への推薦枠の拡大実施を図り、さらなる高等教育の充実を図ります。

【大学・高等部】

高等部と大学では既に、「学問入門講座」として高等部生を対象に大学・短大の各学部・学科教員による講義を年間約40回実施しているほか、英語力の伸長と強化を目的としたe-Learningによる英語自学習の実施等の「接続教育」を実施しています。そうした実績に加え、2011年度は高大の連携強化を更に推進し、高等部生がより高度な内容の教育を受けるための「大学の授業を高等部生が聴講する制度」の可能性を検討します。

2) 4 - 4 - 4 制英語一貫教育の実践

【高等部・中等部・初等部】

2008年度より、青山学院では初等部から高等部の12年を4年毎3期に分けた英語教育を実践しています。「英語の青山」の特色をより一層明確にした質の高い授業の実施と、円滑な連携を可能としているこの取り組みについて、2011年度は、2012年度に第3期第1学年となる中等部3年生が使用するBOOK9を高等部が作成します。

4. 大学院教育の充実と研究機能・社会連携の強化

教育・研究の活性化と充実をはかるため、研究学術等の推進と社会への還元を目指し、以下の取り組みを推進します。

【大学】

- ・理工学研究科では、産業界で実践力や国外で英語をはじめとする知識や能力を修得し実践力を養うことを目的として「青山学院大学における学生参加型教育取組の実施に関する要綱」にもとづき、国内外の企業や教育研究機関へ大学院生を派遣しています。2011年度は、他研究科における実施の可能性について検討していきます。
- ・社会連携機構の戦略的な研究推進・支援体制を強化するために、傘下の研究センターの所管を一元化し、資源の共有化等合理化を目指します。
- ・各資金目的に応じた外部資金獲得を強化するために、現在の学術関係部署の組織及び業務の在り方について検討していきます。

【学院・大学】

2008年度から2010年度にわたり、文部科学省(受託)補助事業大学等産学官連携私立志促進プログラム[機能強化支援型]として補助金を受け、取り組んできた基盤強化の中で、知的資産育成推進や学内外ベンチャー運営支援、知財人材の育成を実施してきました。2011年度は、文部科学省からの本取り組みに対するコメントを参考に、実施時業務をチェックして事務業務の改善と事務体制の整備を行うとともに、大学知財クリニックや研究支援部署との連携を継続して研究資金の獲得及び成果マネジメントの充実を推進し、継続的に起業支援事業と知財人材の育成を図り、また、本事業の情報発信の充実にも取り組んでいきます。

5. 国際交流の活性化

米国のメソジスト監督教会の祈りと援助から誕生した本学にとって、国際交流は長きにわたり教育の重要な柱の一つです。2011 年度も、グローバル化推進プロジェクトチームを中心に国際交流強化を進めている大学を中心に、国際交流の活性化を図ります。

【大学】

- ・大学のグローバル化推進基盤整備事業として留学生受入支援を継続的に実施していきます。具体的には日本語教育の充実、短期プログラムの企画、留学生宿舍の確保及び提供に向けて検討を行い、留学生受け入れの環境の整備を行っていきます。
- ・学部・研究科の垣根を超え、学内の教育研究の資源を集結してアジアを対象とする教育と研究の独立したセンター「アジア国際センター(仮称)」の設置を目指します。

【短大】

優秀な外国人留学生の受け入れは、多くの学生が国際的視野を広め、また学習意欲の刺激にもつながることから、外国人留学生の支援も含めた、将来の女子短期大学の方向性に沿った奨学金制度創設に向け準備を進めており、2012 年度よりの実施を目指します。

環境の整備

1. 青山キャンパスの再開発

「伝統と未来が会う、緑と文化溢れる空間」「安全・安心な教育環境」「サステナブル(持続可能)なキャンパス運営体制」という3つの方針のもと、21世紀に相応しい魅力と特色のある総合学園を可能にするため、青山キャンパスの再開発事業を進めています。

1) 再開発グランドデザイン

【法人】

キャンパスで学ぶ学生が、教育面だけではなく課外活動等においても充実したキャンパスライフを実現できるような環境を整備するため、大学 17 号館の供用開始後、これに続く新館建築に着手することを目指し、準備を進めます。

2) 大学 17 号館の建設と教育課程移行に伴うキャンパスの整備

【法人・大学】

2012 年度の「教育課程の移行」に伴う教育環境の整備は最優先課題であり、安全性、機能性を考慮した上で、設備の充実を図るため、2 号館における耐震工事と情報関連施設の増設、8 号館および9号館1階における図書閲覧スペースへの改修、15号館におけるCALL教室の増設等、既存校舎の改修と整備を行います。

【大学】

- ・2012 年度の教育課程の移行に向けて人文・社会科学系の1～4年生の教育・学習及び学校での生活環境を提供するために、設備環境を整備します。主に建物とその外周及び動線、また通学路を含めたキャンパス外周の整備等を行います。
- ・2012 年度の就学キャンパスの再配置により、約 6000 人の学生が青山キャンパスに増えるため図書館内の改装を行います。さらに、学習スペースの確保、購買会、学生食堂等の整備に努めます。また、2012 年度以降の再開発計画を目指し、大学新図書館の構想を作成します。

3) 高等部校舎の建て替え

【高等部】

2011年度は、第 期工事(2010年4月～2012年3月予定)の最後の年度として、北校舎と東 A 校舎および生徒会館の跡地に、2012年3月の竣工を目指して PS 講堂と北校舎を新たに建築しています。仮校舎を使わず段階的に進める方式をとることで、引き続き生徒に対する教育への影響を最小限に抑えつつ、安全で適正な教育環境の確保・維持に努めながらの工事となります。

2. 学生への支援

青山学院では、厳しい社会状況に直面する学生が安心して学業に励み、将来を考えることができる環境を整備するため、下記の計画を中心に学生支援を続けていきます。

【学院】

2005年度から実施している「青山学院スカラーシップ(寄付による奨学金制度)」は、多くの善意の寄付に支えられて年々奨学生の数を増やしており、受給者からは、感謝の言葉だけでなく、自分もいつか「地の塩、世の光」として寄付を行う立場になりたいという嬉しい決意の言葉も届いています。2011年度は、こうした実りある募金が一過性に終わらず継続してご協力願えるよう更なる広報の充実に努めるとともに、経済的支援を必要とする在学・在校生はもとより、受験生に対しても、奨学金制度についての周知を図っていきます。

【大学】

- ・大学による地域貢献となることに加え、学生のキャリア形成に役立つことから、相模原キャンパス近隣への小学校のボランティアをはじめとする、学生のボランティア活動を支援するための体制を検討していきます。
- ・進路・就職支援の観点から校友会との連携を強化して、青山会ネットワークならびにマスコミ青山会等の協力のもと卒業生による模擬面接、卒業生による業界説明会等を実施していきます。

【短大】

姉妹校への海外留学を目指す好奇心と自立心に富んだ学生を奨励することは、学生の夢の実現の支援となるだけでなく、海外で培った貴重な経験をもとに学びの場で活躍する学生を通して短大の活性化と国際化の推進にもつながることから、2012年度よりの実施を目指し、将来の女子短期大学の方向性に沿った奨学金制度創設に向け準備を進めます。

また、進路・就職については、「人生におけるキャリアの位置づけ」を考えるための授業科目や、女子短期大学生を対象とした企業へのインターンシップ、OGによる就職相談会や模擬面接講座等の進路・就職支援行事等を通じて、卒業後のキャリアに対する意識強化を促すと共に、支援体制の充実に努めます。

. 戦略の強化

1. 危機管理

複雑化する社会のしくみから大切な情報を守り、また園児・児童・生徒・学生と教職員の安全を確保するため様々な取り組み・対応を行う中、2011年度は下記の取り組みを推進します。

1) コンプライアンスの体制の充実

【学院】

- ・ 青山学院では情報の取扱いについて「学校法人青山学院情報セキュリティに関する規則」を定め、更に各設置学校では規則に沿って現場に則した情報取扱いについての手順書を整備し、コンプライアンスに努めています。コンプライアンスの確立には規則の周知徹底と意識の向上を図ることが不可欠であることから、学院では毎年規則に対する正しい理解と遵守の強化を目的とした研修・講習会を実施していますが、2011年度は、多岐にわたる情報セキュリティの中でも主に教員に関わる部分を中心に意識の強化を図っていきます。また、これに関連して「個人情報保護」についても再度規則の整備等を行い、個人情報保護の体制を強化します。
- ・ 学院内で万が一にも不適正な行為が発生した場合、厳然たる姿勢で適切に対応するためには事態をいち早く確認できる体制の確立が必要であることから、不適正行為の通報者・相談者を保護することを目的とし、公益通報者保護法に基づいた「学校法人青山学院公益通報者保護に関する規則」の制定準備を行い、2012年度からの施行を目指します。
- ・ ハラスメント防止においては相手の人格を尊重することが重要であり、学院では「学校法人青山学院ハラスメント防止に関する規則」を定めて、教職員・学生・生徒等への啓蒙を図り、意識の向上に努めてきました。2011年度は、ハラスメント防止に関する活動についての再検証を行い、より迅速にかつ該当者に配慮した対応を行えるよう、充実した体制づくりを目指します。

【大学】

情報セキュリティ管理体制整備と情報セキュリティポリシーおよび運用手順の検証と定着を推進するために、法人の安全対策課と連携を取り、オリエンテーションや研修を実施して教職員に対する意識の向上と周知の徹底を図ります。

【中等部・初等部・幼稚園】

各設置学校では様々な場面で重要な情報を取り扱っていますが、特に入試や試験に関わる情報については取扱いに関する意識の強化と事故を防ぐ体制の確立が必須であるため、2011年度は、従来実施している「情報セキュリティポリシー」と「運用手順」の検証と定着を更に推進し、危機管理の強化を図ります。

2) 安全確保

【学院】

園児・児童の安全確保とそれに伴う近隣との関係確保、また 2012年度キャンパス再配置による登校者数の増加に備え、青山キャンパスの最寄駅である「渋谷駅」及び「表参道駅」から各設置学校までの登下校経路の安全性を検証し、必要に応じた対応と警備体制の改善を実施します。

【大学】

災害発生時に素早く的確に学生、教職員を誘導して安全な場所に避難させることを目的として、
1. 行動マニュアルの作成 2. 災害時連絡網の対応体制の整備 3. 避難訓練 を行います。
2011年度は、そのためにプロジェクト体制を組織します。

【高等部】

高等部では、校舎建て替え工事中の生徒の安全確保のため、工事の進捗状況に応じた各施設の施錠や警備室の運用体制を整備し、セキュリティ対応を行っています。2011年度は、現在行われている第 期工事と、2012年4月から行われる第 期工事中の運用体制について整備・検討します。

【中等部・幼稚園】

災害発生に備え、各設置学校では「災害発生時の行動についてのマニュアル」を作成し、毎年実施する避難訓練を通してマニュアルの検証と改善にも努めています。2011年度は、中等部と幼稚園で、それぞれ新型インフルエンザや防犯対策、不審者侵入対応行動等、現状に則したマニュアル改訂を行う予定です。また幼稚園では、園児の安全確保のためには保護者の理解と協力が必須であることから、園児の安全確保に各家庭が対応しているかどうかの自己チェックを行えるよう「保護者の手引き」も改訂し、保護者の危機管理意識の強化を促します。

2. 社会的責任の確立

教育方針や教育内容はもちろん、財務や経営に関する情報を広く一般に公開することや、環境に対する配慮等、教育機関として求められている社会的責任を果たすため、下記の取り組みを進めます。

1) 情報の開示

【学院】

学校教育法施行規則等の改正により、教育機関の社会的説明責任としての教育研究情報の開示がよりいっそう求められるようになったことに対応し、各設置学校ごとに開示すべき情報の項目や内容、公開に関する基準や方法等について精査し、学院として統一した制度の確立を図ります。

【大学】

学校教育法施行規則等の改正省令が公布され、公表が義務化された「教育研究活動等の情報」の9項目及び公表が努力目標とされた「教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報」について、大学の戦略的情報公開の機会ととらえ、積極的にアピールしていきます。

【短大】

WEBサイトに設けた「情報の公表」ページにおいて開示している情報の充実を図ります。

【高等部】

保護者への情報開示のひとつとして、全校生徒・後援会役員等を対象にした自己点検を目的とするアンケートを実施し、結果を保護者へ公表していきます。

【中等部】

後援会総会にて募った意見・提言に対し必要に応じた対応を行い、さらにその結果を後援会評議員会において公表することで、中等部の教育への理解を求めていきます。

【初等部・幼稚園】

情報の開示は、社会的説明責任としてだけでなく、児童や園児の保護者との信頼関係を築くためにも必要であることから、初等部では主に「指導要録」の開示について、また幼稚園では開示すべき情報について検討を行い、教育機関として適正な情報の開示を行っていきます。

2) 省エネルギーの推進

【法人】

「エネルギーの使用の合理化に関する法律(省エネ法)」に対応し、二酸化炭素(CO₂)の排出量を削減するために、高効率の機具を採用する施策を年次計画で進めています。2011年度については、既存校舎に対して最新の省エネ型照明器具の導入を行う等、エネルギー使用合理化・コスト改善への取り組みを強化し、青山学院として環境問題に寄与します。

3. 校友との連携強化

【学院】

30万人の卒業生と青山学院をつなぐ絆の強化のため、下記の取り組みを実施します。

- ・2010年度より創刊された青山学院と青山学院校友会共同発行の卒業生向け情報紙「あなたと青山学院」(年4回発行)を、より校友の声を反映するものとして紙面の充実を図り、タイムリーな情報発信を行います。
- ・大学主催の地方でのペアレンツウィークエンドに校友会各支部より校友が出席し、地元における卒業生や卒業生が関わる企業の紹介等を通して、校友会と在学生・保護者との絆の強化を推進します。
- ・現在学校単位の校友組織で管理されている校友のデータベースを一元化し、総合的に管理できる体制を整備した上で、校友を対象とした「モバイルを含むWEBを利用した情報提供ツールによる情報発信」や「会員制コミュニケーションサイトサービス」等の仕組みの検討・実施を進め、今までにない「校友サービス」の確立を図ります。

4. 組織・体制の強化

長きにわたり多くの先人が築いてきた学院の伝統を守りつつ、学校を取り巻く環境の変化に対応し、青山学院の新しい時代を確立するために、さまざまな角度から組織・体制の強化、整備に取り組んでいきます。

1) 広報体制の強化

【学院】

学院に関わるすべての人たちの「学院に対する理解」をより深めるため、2011年度は学院の教育や活動に関する情報を今まで以上に積極的に発信できるよう体制を整え、最も規模の大きい大学を中心に広報の強化を図ります。「iTunesU」等で配信する大学の授業コンテンツや大学スポーツ・学内行事動画コンテンツ等、注目度・訴求度の高い動画配信の充実を図るほか、大学・短大のWEBサイトについても、各設置学校と連携しながら、2012年度からのリニューアルを目指した準備を行います。

【大学】

2012年度の教育課程の移行等に向けた大学の広報体制を整備・強化することにより、効果的な広報活動を展開します。

【短大】

2012年度より、子ども学科を除いた既存の5学科(国文学科、英文学科、家政学科、教養学科、芸術学科)を融合させた「現代教養学科(仮)」を新たに開設する予定であることから、進学媒体誌への計画的な広告掲載、女子短期大学WEBサイトにおける特設ページの設置等、効果的な広報活動を展開し、広く周知を図ります。

【初等部・幼稚園】

高等部から幼稚園までは、2009年度に、学院として統一をとった上で各設置学校の独自性を発揮できるWEBサイトへと大きくリニューアルしました。3年目となる2011年度は、初等部が「訪問者にとって分かりやすく、知りたい情報を速やかに知ることのできる内容構成やレイアウト」に焦点を置いた見直しを、幼稚園が「幼稚園における教育について、社会からのより正しい理解と信頼を得ること」を目標とした掲載内容の見直しをそれぞれ行い、WEBサイトのさらなる充実を図ります。

2) 入試広報体制の強化

【大学】

受験者増加を目指すために2010年度から実施している入学広報アドバイザー制度をさらに発展させ、高等学校、予備校等に出向いた説明会を積極的に行なうことで、広く青山学院大学をアピールしていきます。

3) 新募金制度「青山学院 エバーグリーン募金」の実施

【学院】

今後の青山学院の更なる発展には、「財政基盤の確立」と「在学生に対する経済支援制度等の充実」が不可欠であるとの認識に立ち、創立130周年記念事業の一つとして行われた「青山学院 EVERGREEN 21 募金」の趣旨を継続して、2010年度より新募金制度「青山学院 エバーグリーン募金」が発足しました。新募金は、学院の財政基盤の確立を対象とする「青山学院維持協力会募金」、在校生支援を対象とする「青山学院奨学金募金」、現在建築中の大学17号館に作られる本多記念国際会議場建築費用を対象とする「本多記念国際会議場建築募金」からなっており、先人達の志を継ぐ多くの学生が世界へ羽ばたく環境を整えるため、関係者の皆様方に各募金の趣旨をご理解いただき、お力添えいただけるようお願いしていきます。

4) 青山キャンパス事務組織の再編

【学院・大学】

大学では、2012年度の教育課程移行から派生する「キャンパス間の一体化保持」と「キャンパス力の発揮」の双方を叶えるために事務組織を再編し、教育研究活動が効果的に推進されることを通じて、学生の教育、学習環境、及び学校での生活環境を担保することを目指しています。更に、それに伴い、学院全体として新しい組織案にもとづく事務分掌の見直し、重複業務の精査、職員の人数の適正化等を実施し、より効率的で効果的な人事配置を実現します。

5) 情報系の整備

【学院・大学】

教育・研究でのICT利用に関して、よりの確に利用者のニーズを把握したICTシステムの導入・運用の実施ができる体制を構築する必要があることから、情報系組織の再編を行います。この再編の中で、情報教育・事務のスタンダードなサービスの強化のための、学生・教職員の窓口支援・基本的な情報支援サービスの受け付け部分となる「情報基盤センター(仮称)」の設置を検討します。

補足事項

P2 から P10 に掲載されている事業計画内容について、法人執行部および本部事務部署にて行う計画のうち、「教育・研究・学術」に係る計画については【学院】、「経営・管理」に係る計画については【法人】と表記しています。

命題 数字	青山学 院が探 求すべき 命題	課題 数字	命題を構 成する柱 となる課 題	長期計 画数字	長期計画	中期 計画 数字	中期計画	事業 計画 数字	2011年度事業計画	該当部署			
人間 教育の再 創造	[]	キリスト 教教育の 促進	1	キリスト教への 理解の拡大	(1)	ソーパープログラム(キリスト 教教育も可能な初等教育及 び中等教育教員の育成)の実 施		キリスト教学校の教師を目指す学生に対する 養成プログラムの充実	宗教センタ-				
					(2)	礼拝等宗教活動の推進		キリスト教行事の見直し	短大				
								礼拝における各部間交流	宗教センタ-				
								現代的礼拝音楽(讃美)形式による大学礼拝 の見直しと充実	宗教センタ-				
								教職員向け聖書研究会の実施	宗教センタ-				
					(3)	キリスト教信仰に基づく中等 部教育の学外者への理解拡 大		キリスト教学校教育同盟教職員後継者養成へ の協力	中等部				
					[]	教育・研 究の活 性化と充 実	1	高等教育の充 実	(1)	大学新設学部発足・学科増 設・改組等学部・学科の改革 による学部教育強化		文学部比較芸術学科設置	大学
										相模原キャンパスにおける新学部構想の検討	大学		
									(2)	キャンパス・コンセプトに合わ せた教育課程再配置		人文社会科学系学部を2012年度より青山キャン パスに移す準備～実施の具体策検討	大学
									(3)	大学院教育の充実		大学院と学部教育の接続強化(早期卒業制度 の実施)	大学
		研究者養成大学院での若手研究者と後継者 の養成	大学										
		1 法科大学院の司法試験合格者増の実現	大学										
		国内外の企業や教育研究機関への院生派遣	大学										
	(4)	教養教育の強化		2 青山スタンダードの改善					大学				
	(5)	リベラルアーツ教育の実践		教育課程の移行に伴う青山スタンダード教育の検 討					大学				
	(6)	3 短大改組		2012年度開設予定の新学科の準備					短大				
	2	幼稚園・初等・ 中等教育の充 実	(1)	教育力の向上		教育課程変更に伴う教科教育目標の見直し	高等部						
						32名8学級体制への整備	中等部						
						初等部、宿泊行事の見直し	初等部						
	3	FD・SDの推進	(1)	4 教職員の意識改革		「教育研究共同体」としての青山学院の高等部 に対する帰属意識、及び連帯意識を高める	高等部						
4	研究学術等の 推進と社会への 還元	(1)	社会連携機構の活動強化		社会連携機構関係の規則と組織の整備	大学							
				(2)	学内起業の支援		知的資産育成推進及び学内外ベンチャー運営 支援並びにOJTによる知財人材の育成	総合企画部					

命題数字	青山学院が探すべき命題	課題数字	命題を構成する柱となる課題	長期計画数字	長期計画	中期計画数字	中期計画	事業計画数字	2011年度事業計画	該当部署
人間教育の再創造	[]	教育・研究の活性化と充実		4	研究学術等の推進と社会への還元	(3)	総合研究所の財政基盤と機能強化		安定した運営資金に基づく研究支援の強化	大学
						(4)	研究体制の強化		研究活動の推進に資する諸制度及び諸規則の整備	大学
									関係事務組織による戦略的な研究推進・支援体制の構築	大学
				(5)	青山学院出版部設立の検討		設立資金、運営体制等の検討	大学		
				5	教育研究への情報通信技術の活用	(1)	情報通信システムの整備と安全な運用		情報セキュリティポリシーを無理なく実行できるシステムの構築と運用	大学
		情報通信システムの整備と安全な運用および情報管理・運用システム機の強化					教育・研究環境の高度化と充実を図るための情報系組織の再編	次期ICT戦略策定委員会		
		[]	一貫教育の推進	1	付属校の設立と提携校の設定	(1)	(小)中高一貫校の設立(相模原)		実施の具体策検討	法人執行部
						(2)	5提携校の設定		キリスト教系学校との提携	大学
				2	一貫教育の充実	(1)	4-4-4制英語一貫教育の実践		BOOK9の執筆	高等部
				3	各設置学校間の連携強化	(1)	大学と女子短期大学との連携強化		編入受け入れを含めた高等教育の充実	大学
								青山学院大学への推薦入試枠の拡大	短大	
	(2)	高大の連携強化		導入教育・接続教育の拡大	高等部					
	(3)	幼初中高の連携強化		各設置学校出身生徒の進級・進学状況を調査及び分析	中等部					
	[]	国際理解教育の推進	1	6国際交流の強化	(1)	外国の大学との交流		マクレイプログラムの実施(アジアの大学対象)	大学	
					(2)	留学生の受け入れ制度の見直し		外国語教育の充実および日本語教育の強化や英語講義の増加等留学生に向けた教育プログラムの改革	大学	
								優秀な私費留学生確保のための奨学金創設	短大	
	(3)	国際交流の研究とそのための施設の充実		アジア研究国際センターの充実	大学					
	環境の整備	[]	キャンパスの整備	1	現存施設の整備	(1)	施設・設備の整備充実		8クラス32名学級のための教室・設備変更	中等部
									7号館及びウェスレーホールの耐震診断及び2号館耐震補強工事	管理部
									図書館学習スペースの確保	大学
2				7青山キャンパス再開発	(1)	再開発(ハード)スケジュール計画の決定		17号館に続く、新館計画の決定	法人執行部 総合企画部	

命題数字	青山学院が探すべき命題	課題数字	命題を構成する柱となる課題	長期計画数字	長期計画	中期計画数字	中期計画	事業計画数字	2011年度事業計画	該当部署
環境の整備	[] キャンパスの整備	2	7 青山キャンパス再開発	(2)	高等部の建て替え		第一期工事(2010年4月～2012年3月)北校舎・東A校舎解体工事、PS講堂、北校舎新築工事		高等部	
				(3)	大学17号館新築		17号館の円滑な運用を行うための検討	大学		
		3	歴史と伝統の継承	(1)	歴史博物館設立の検討		博物館または博物館相当施設とするために必要な条件を調査する		資料センター	
				(2)	歴史資料の整備		資料センター所蔵資料の分類・整理		資料センター	
							学院130年史編集のために収集した資料の分類・整理		資料センター	
		[] 学生等への支援	1	8 奨学金の整備と拡充	(1)	奨学金取扱事務の整備		万代奨学金回収業務の各部への委託および外部回収業者への委託検討および滞納者への督促強化		総務部
					(2)	返済滞納者に対する督促強化		奨学金の督促方法の検討		大学
					(3)	奨学金の拡充		「青山学院スカラーシップ」(寄付による奨学金制度)の充実		募金事業局
				留学する学生のための奨学金創設				短大		
			2	9 進路・就職支援の拡充	(1)	校友会との連携強化		校友会との連携強化策の検討		大学
	3				活動の支援	(1)	ボランティア活動の整備と支援プログラムの検討		ボランティア活動に関する業務整理と支援プログラムとしてのセミナー開催を検討	大学
	4	学習支援体制の拡充	(1)	図書館機能の整備		情報リテラシー教育(図書館利用者教育)の拡充		大学		
	[] 教職員への支援	1	活動の支援	(1)	表彰制度の確立		専任事務職員・専任現業職員の表彰制度の検討		人事部	
				2	健康・心のサポート体制	(1)	本学安全衛生委員会の機能強化		学内メンタルヘルス研修の充実と外部EAPサービスの具体的運用を実施する	人事部
	戦略の強化	[] ガバナンスの強化	1	危機管理と法令遵守	(1)	コンプライアンス体制の確立と周知・実行・チェック		個人情報に係わる規則整備及び体制の確立		総務部
								不適正行為報告制度、苦情報告制度等の検討		総務部
								ハラスメント制度の整備		人事部
								情報セキュリティの教職員へのリスク意識の徹底を図るため継続的に研修・講習会を行ないコンプライアンスを含めた教育を検討のうえ実施する		人事部
								11 情報セキュリティに関する規則の遵守の強化		総務部
								11 情報セキュリティ管理体制整備と情報セキュリティポリシーおよび運用手順の検証と定着の推進		大学
							中等部教員所管の機密文書類に関する運用基準の定着の推進		中等部	

命題数字	青山学院が探すべき命題	課題数字	命題を構成する柱となる課題	長期計画数字	長期計画	中期計画数字	中期計画	事業計画数字	2011年度事業計画	該当部署
戦略の強化	[]	ガバナンスの強化	1	危機管理と法令遵守	(1)	コンプライアンス体制の確立と周知・実行・チェック	11	情報セキュリティ管理体制整備と情報セキュリティポリシーおよび運用手順の検証と定着の推進	初等部	
							11	情報セキュリティ管理体制整備と情報セキュリティポリシーおよび運用手順の検証と定着の推進	幼稚園	
					(2)	大災害対策		災害時連絡網及び対応体制の整備	大学	
								災害発生時の行動についてのマニュアル作成	大学	
								災害発生時の行動についてマニュアル見直し	中等部	
								災害発生時の行動についてのマニュアル作成	幼稚園	
								各設置学校での避難訓練の実施	大学	
					(3)	生徒の学校内外安全確保		更なるセキュリティ対策の検討	高等部	
							園児の学校内外安全確保		保護者の危機管理の実践状況の検証を踏まえた安全確保の推進	幼稚園
			登下校最寄駅(渋谷および表参道)から各学校までの経路の安全性の検証と改善	総務部						
		(4)	社会的信用損失の防止と対応				危機管理ガイドラインの策定検討	総務部		
		2	社会的責任の確立	(1)	情報の開示		教育情報の公表の促進	大学		
							開示すべき情報の検討	初等部		
							開示すべき情報の検討を行い、どのような情報を開示するか決定する	幼稚園		
							情報の開示の基準及び方法に関する基本的ルールを確立する	広報部		
		(2)	環境問題への対応		CO2削減の更なる推進	管理部				
		1	コスト改善・改革	(1)	省エネルギーの推進		省エネ機器等導入の検討	管理部		
							IVYCSの活用	総合企画部		
				(2)	外部資金の獲得強化		各資金目的に応じた外部資金獲得の強化	大学		
2	財源の確保					(2)	新規収益源テーマの検討		アスタジオの有効活用	法人執行部
				総合企画部						
1	12 広報の強化	(1)	広報体制の強化		大学広報体制の整備等	大学				
					校友会や後援会との連携強化	大学				

命題数字	青山学院が探すべき命題	課題数字	命題を構成する柱となる課題	長期計画数字	長期計画	中期計画数字	中期計画	事業計画数字	2011年度事業計画	該当部署			
戦略の強化	[]	12	広報の充実	1	12 広報の強化	(1)	広報体制の強化		新学科「現代教養学科」に対する広報の推進	短大			
									初等部広報のあり方の検討と学院広報部との連携	初等部			
						(2)	WEB広報の充実		幼稚園広報としてよりふさわしい有効な内容の策定と運用	幼稚園			
									ウェブサイトの動画配信の充実	広報部			
									大学ウェブサイトのリニューアル	広報部			
						(3)	その他の広報手段検討		インナー広報のあり方の検討	広報部			
		13	入試の強化	1	入試制度の改革	(1)	幼稚園入試実施処理体制の強化		入試実施処理体制の改善	幼稚園			
						(2)	入試制度の見直し		現在の入試制度の見直し	初等部			
						(3)	試験会場の整備		相模原キャンパスを試験場として使用することを検討	大学			
				2	入試ミスの防止と対応の制度化	(1)	入試問題出題体制、チェック体制の整備		入試問題出題体制、チェック体制の制度化	中等部			
						(2)	入試に係る情報漏洩の防止と対応の制度化		情報管理の徹底、教職員の意識の徹底により、ミスの発生を防止する体制の継続強化	幼稚園			
				3	大学入試広報の強化	(1)	入試説明会の強化		入学広報アドバイザー育成・増員及び新しい体制を検討	大学			
						高等学校(地方含む)・予備校等での説明会の増加	大学						
	15	15	1	15 校友との連携強化・愛校心の育成	1	15 校友サービスの向上	(1)	校友会支部の支援強化		地方開催の行事における主管学校・部署と校友会支部の連携促進を図る	校友センター		
							(2)	校友組織の発展的活動のための総合的仕組みの構築		モバイルを含むWEBを利用した情報提供ツールによる校友への情報発信の検討	次期ICT戦略策定委員会		
										会員制コミュニケーションサイトサービスも視野に入れた仕組みの検討	次期ICT戦略策定委員会		
							(1)	募金体制の強化		新募金の充実	募金事務局		
							3	愛校心の育成	(1)	校友への愛校心の促進		校友に対する広報の充実	校友センター
									(2)	青山学院維持協力会の会員制組織・制度の充実		青山学院維持協力会の会員制組織・制度の見直しの検討	募金事務局
	1	1	1	1	1	1 新組織の確立	(1)	青山キャンパス事務組織の再編と業務効率化		業務効率・コストの改善をふまえた事務組織再編の検討	法人執行部 改革推進本部		
										青山・相模原両キャンパスにおける実態調査、基本構想策定、環境整備の検討	大学		
							(1)	教員の任期制や業績年俸制、勤務評定の検討		教員の任期制についての理念の明確化と導入の検討	人事部		
							2	人事制度の見直し					

命題数字	青山学院が探求すべき命題	課題数字	命題を構成する柱となる課題	長期計画数字	長期計画	中期計画数字	中期計画	事業計画数字	2011年度事業計画	該当部署
	戦略の強化	[]	組織の整備・業務の見直し	2	人事制度の見直し	(1)	教員の任期制や業績年俸制、勤務評定の検討		教員の人事評価制度の根幹の検討	人事部
						(2)	教員の採用の審査方法検討		青山学院大学卒の教員の採用拡大	高等部
							教員の採用・職員の採用の審査方法検討		職員採用方法の見直しと改善	人事部
						(3)	適正人員と報酬体系の見直し		2012年0-4制移行を視野に人数の適正化を図る	人事部
					人件費総枠をふまえた報酬体系の見直し			人事部		
				3	16 情報系の整備	(1)	ポータルシステムの拡充と事務支援体制の効果による情報発信およびユーザーからのデータ蓄積と蓄積データの戦略的利用		情報教育・事務のスタンダードなサービス強化と「情報基盤センター(案)」の構築	次期ICT戦略策定委員会

課題「[]生涯学習の充実」にもとづく事業計画は、「2010年度までに実施が終了し、定例業務として見直しや改善を行いながら実施していくもの」や「2012年度以降に着手するもの」であるため、2011年度は事業計画として策定されていないことから、上記一覧表には掲載されていません。

地の塩、世の光

The Salt of the Earth , The Light of the World

【青山学院スクール・モットー】

学校法人青山学院 2011年度事業計画書 (2011年4月発行)

(問合せ先) 本部 総合企画部 03(3409)6384 内線 11338
